

協力隊新聞

2021年
6月号
Vol.8

| 発行 | 地域おこし協力隊4名 編集長 田中瑞穂 桜川市ヤマザクラ課 | 電話 | 0296-58-5111

新隊員

はやし みお

林 湊さん 着任!

加波山市場で活躍中!

年始を伊豆大島の砂漠で過ごしたときの1枚。
インドアもアウトドアも好きです。



ニュージーランドに2年間暮らしていたことがあります。
お肉はラム肉が好き。

はじめまして! 今年の4月9日から地域おこし協力隊としてお世話になっております埼玉県川越市出身の林湊と申します。大学では写真を専攻しており、昨年末までは広告会社で働いていました。撮影依頼などあればお気軽にご相談ください! 「旅するように暮らして、暮らすように旅をする」を信条に、善く生きることが趣味です。茨城の大自然を満喫するためにヨガとスキューバダイビングを極めたい今日この頃…。

桜川市民に「**ここはなんもねえぞ!**」と挨拶代りに言われ続けること早2ヶ月、充実した日々を送っております。なんもなくていい! いや! なんもないがある? 海も山もない町からやってきた私には、歩いていて山々が目の前にそびえる景色こそが特別な日常のはじまりです。そしてなによりも地域の人々の人柄が素晴らしいです。全く見知らぬ土地での新生活でしたが、皆様のおかげで何不自由なく毎日楽しく笑って過ごせています。素敵な機会を与えてくださった桜川の皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

さて、私のミッションは、活動拠点である「加波山市場」の運営や商品の企画開発にたずさわりながら、SNSを活用した情報発信をしていくことです。現在は手始めにInstagramを運用しはじめました。加波山市場のお得な情報やイベントのお知らせなどを中心に更新していきます。また今後は、生産者の方々に直接話を聞き、農作物が店頭と並ぶまでのバックストーリーなどに焦点を当てることができないか検討中。桜川市内に住む方々が地元の魅力を再認識し、市外の方々には桜川に興味を持っていただく、そんな機会を提供していければと考えています。

1日でも早く皆様のお顔を覚え、また覚えてもらい、少しずつ交流を深めていけたら嬉しいです。ご連絡は加波山市場InstagramかFacebookよりメッセージにてお願いいたします。皆様の貴重なご意見・感想など随時お待ちしております。

加波山市場Instagram



加波山市場フェイスブック



「ナラ枯れ」って何？ コナラやクヌギに忍び寄る新しい病気を防ごう

— 県西農林事務所 筑西林業指導所にお話を伺いました —

皆様「ナラ枯れ」という言葉をご存じでしょうか？「松枯れ」や「松くい虫」は有名だけど、ナラ枯れは知らない…という方が多いのではないのでしょうか。桜川市内には、多くの山林が存在し、樹木の種類も豊富ですが、その中心はコナラや、クヌギといった昔の薪炭材と言ってもいいでしょう。ナラ枯れはこうした樹木がかかる新しい病気です。今回、ナラ枯れについて、県西農林事務所 筑西林業指導所でお話を伺ってきました。



カシナガの成虫

Q：「ナラ枯れ」とは、どのような病気でしょうか？

A：ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）という体長5mmほどの小さな虫が伝播するナラ菌により、夏にナラ、シイ、カシ類が集団枯死する病気です。昆虫と微生物がタッグを組んで木を枯らすという意味では、松材線虫病に似ています。茨城県内でも2020年に初めて、本病によるコナラの枯死が確認されました。本病にかかるのは、コナラ、クヌギ、クリ、アラカシ、シラカシ、スダジイ、マテバシイなどで、これらは、茨城県の平地や丘陵、山地に広く分布する広葉樹林の主要樹種です。被害の拡大を防ぐためには、被害木の早期確認と材内のカシナガの駆除を徹底する必要があります。市民の皆様の理解と協力が必要です。

Q：カシ、シイなどの常緑樹もやられるのですね。枯れるメカニズムを教えてください。

A：カシナガの成虫は、5～10月（最盛期は6～8月）に被害木から飛び出し、健全な木の幹に丸い穴をあけて樹体内に穿入します。この時、体に付けて持ち込んだナラ菌の胞子を穴の壁に植え付け、穴の中にナラ菌を繁殖させて、これを自分や幼虫のエサにします。自分を含めた家族のための食糧を、自ら栽培しているのです。ナラ菌が繁殖した部分は、樹液の流動が止まるため、多数のカシナガに加害されると枝葉に十分な水分が行きわたらなくなり、葉の色が赤褐色に萎れて、枯死します。カシナガは、小径木よりも大径木を好むので、被害は主に大径木に集中します。



カシナガの穿入孔（直径約1.5～2mm）



カシナガの穿入孔に爪楊枝を挿したところ

Q：被害木の見分け方を教えてください。

A：樹勢の衰えたナラ、シイ、カシ類を見つけたら、まず、その木の地際を見ます。カシナガに加害された木であれば、地際には、粉のように細かい木くずが溜まっています。これは、カシナガが木にトンネルを掘る際に出たものです。地際に木くずが溜まっていたら、次に幹の表面をよく見て、木くずが出ている穴を探します。カシナガの場合、穴の直径は約1.5～2mmです。爪楊枝の先端が約1cm入る程度の穿入孔がカシナガの目安です。

Q：発見後の処理はどうしたらいいのでしょうか？

A：ナラ枯れの被害木を放置したり、伐り倒したままにしておくと、材内で増殖したカシナガが新たな巣作りのために飛び出し、被害が拡大します。このため、被害木はカシナガの新成虫が材内で羽化し、木から飛び出す前の4月までに伐倒し、焼却または薬剤によるくん蒸処理などを行っていただく必要があります。この際、カシナガは根株にも多数生息していることに注意が必要です。ご自身の山林で疑いがある場合には、当所へご相談下さい（右記参照）。

[連絡先]

茨城県県西農林事務所 筑西林業指導所
〒308-0841 筑西市二木成615
TEL 0296-24-9176

(注) 写真は「茨城県林業技術センター」より提供